高崎市文化財調査報告書　第 336 集

倉賀野辻薬師遺跡

― 宅地分譲に伴う埋蔵文化財調査報告書 ―

２０１４

群馬グランディハウス株式会社
高 崎 市 教 育 委 員 会
有限会社 高澤考古学研究所

例　言

1　本書は、群馬県高崎市倉賀野町字辻薬師 5396 番地 1 に所在する「倉賀野町辻薬師遺跡」（高崎市遺跡調査番号 584）の発掘調査報告書である。
2　調査は、宅地分譲に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施した。
3　発掘調査から整理作業を経て、報告書刊行に至るまでの一連の作業は、群馬グランディハウス株式会社様の費用負担によって行われた。
4　発掘調査及び整理作業は、高崎市教育委員会の指導･監理のもと、有限会社 高澤考古学研究所が実施した。
5　調査体制は、以下の通りである。
高崎市教育委員会文化財保護課　田口 一郎・神澤 久幸・大野 義人
有限会社 高澤考古学研究所　澤田 福宏
6　発掘調査は、平成 26 年 1 月 6 日から平成 26 年 2 月 7 日までの期間で実施した。調査面積は 380㎡である。
7　本書の編集は、有限会社 高澤考古学研究所の澤田 福宏が行った。執筆は I を高崎市教育委員会文化財保護課が、それ以外を澤田が行った。
8　基準・水準点測量及び遺構・遺物平面図測量はタナカ設計に委託した。
9　空中撮影は加藤空撮に委託した。
10　遺構及び遺物撮影は、澤田が行った。
11　発掘調査及び整理作業に従事した者は、以下の通りである。（敬称略、50 音順）
澤田 美枝子・澤田 恵美・住谷 次男・関根 折夫・田村 睦・柳澤 敏子・蓬田 保伯・渡 明秀
12　発掘調査から報告書刊行に至るまでに、下記の機関に協力を賜った。（敬称略、50 音順）
群馬グランディハウス株式会社
13　発掘調査により得られた資料及び出土遺物は、一括して高崎市教育委員会に保管してある。

凡　例

1　遺構挿図中に使用した方位記号は座標北を、水準線は標高を示す。座標は国家座標Ⅸ系を使用した。
2　土層注記の色調は、農林省農林水産技術会議事務局（財）日本色彩研究所監修「標準土色帖」を使用した。
3　本書で使用した地図は、第 1 図が国土地理院発行数値地図 1/25,000 地形図を、第 2 図は国土地理院発行数値地図 1/2,500（高崎市都市計画基本図）を使用した。
4　掲載図の縮尺は、各キャプション及び各図に示した通りである。
5　遺物実測図の縮尺は、各キャプションに示した通りである。
6　本書で使用した火山噴出物の記述は以下の通りである。
As-C　…… 3 世紀後半降下「浅間 C 軽石」
Hr-FA　…… 6 世紀初頭降下「榛名二ツ岳火山灰」
As-B　…… 1108 年（天仁元年）降下「浅間 B 軽石」
As-A　…… 1783 年（天明 3 年）降下「浅間 A 軽石」

目次

例言・凡例・目次
Ⅰ　調査に至る経緯……1
Ⅱ　調査の方法と経過……1
Ⅲ　遺跡の地理的環境と周辺遺跡……2
Ⅳ　基本堆積土層……4
Ⅴ　調査の成果……6
Ⅵ　総括　……14
写真図版
参考文献・抄録

挿図・表目次

第1図　周辺遺跡図（1/25,000）……3
第2図　遺跡位置図（1/2,500）……4
第3図　基本堆積柱状図・写真……4
第4図　遺跡全体図（1/200）……5
第5図　1号住居　平面・断面図　掘り方平面図（1/60）出土遺物図（1/3）……6
第6図　1号井戸　平面・断面図（1/60）……7
第7図　2号井戸　1・2号土坑　平面・断面図（1/60）……8
第8図　3～6号土坑　平面・断面図（1/60）……9
第9図　1・2号溝 平面・断面図（1/60）　出土遺物図（1/3）……10
第10図　3・4号溝 平面・断面図（1/60）……11
第11図　畠跡　平面・断面図（1/100）……12
第12図　旧流路　平面・断面図（1/100）……13
第13図　縄文包含層　出土遺物図（1/3）……14

第1表　1号住居遺物観察表……7
第2表　1号溝遺物観察表……10
第3表　包含層遺物観察表……14

写真図版

PL1：空撮　PL2：空撮（垂直）　PL3：調査写真　PL4：調査写真　PL5：調査写真　PL6：調査写真
PL7：出土遺物写真

Ⅰ　調査に至る経緯

平成２５年９月、群馬グランディハウス株式会社（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）に建売分譲造成予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。市教委は、照会地周辺が奈良～平安時代に至る散布地として遺跡台帳・地図に登録された埋蔵文化財包蔵地であるため試掘調査による確認を実施し、工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年１０月１０日付けで事業者より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年１０月３１日に工事予定地の試掘調査を実施し、奈良～平安時代集落跡の遺構を確認した。

試掘結果を受けて埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、計画変更は不可能ということなので、道路予定地に関して記録保存の発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、有限会社高澤考古学研究所に委託して実施することとなり、平成２５年１２月２４日付けで高崎市長・事業者・高澤考古学研究所の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成２５年１２月２４日付けで事業者と高澤考古学研究所の二者で発掘調査委託契約が締結された。

Ⅱ　調査の方法と経過

高崎市教育委員会による試掘調査の結果、遺構確認面までは現地表から約 65㎝下であることが確認されている為、重機にて表土を除去し、ジョレンを用い人力にて遺構確認作業を行った。遺構確認作業の結果、試掘通り、古墳時代の住居跡及び土坑等を検出した。また、調査区北側にて平安時代以前の畠跡を確認し、その下層にて旧流路を検出した。

検出された遺構は埋没状況を確認する為、土層観察用のベルトを残しながら、掘り下げ作業を行った。検出された遺物は必要に応じて座標を与え、平面図及びエレベーション図を作成し、写真記録を所得しながら調査を行った。写真は 35㎜小型一眼レフカメラを用い、カラーリバーサル、モノクロームネガの２種類のフィルムを使用し、1010 万画素の小型一眼レフデジタルカメラを併用した。平面測量は光波測量機を使用し作成した。検出された遺構の調査が終了した後、ラジコンヘリコプターを使用し空中撮影を実施した。その後、調査区南側で確認された旧流路の調査を実施した。すべての調査が終了した後、平成２６年２月３日に高崎市教育委員会の発掘作業完了確認を受け、同年２月７日に現地調査を終了した。

1 月 6 日　現場調査開始準備
1 月 7 日　重機による表土除去作業及び遺構確認作業
1 月 9 日　遺構確認作業　畠跡検出
1 月 10 日　遺構確認作業　1 号住居及び 1、2 号井戸検出
1 月 14 日　各遺構掘り下げ作業開始
1 月 16 日　縄文包含層を確認　包含層掘り下げ作業開始
1 月 17 日　光波測量機による平面測量
1 月 27 日　遺構掘り下げ作業終了　空撮の為の調査区清掃作業
1 月 28 日　ラジコンヘリコプターによる空撮実施
1 月 29 日　旧流路の調査開始
2 月 1 日　光波測量機による平面測量
2 月 3 日　高崎市教育委員会による発掘作業完了確認
2 月 7 日　現場撤収作業　現地調査終了

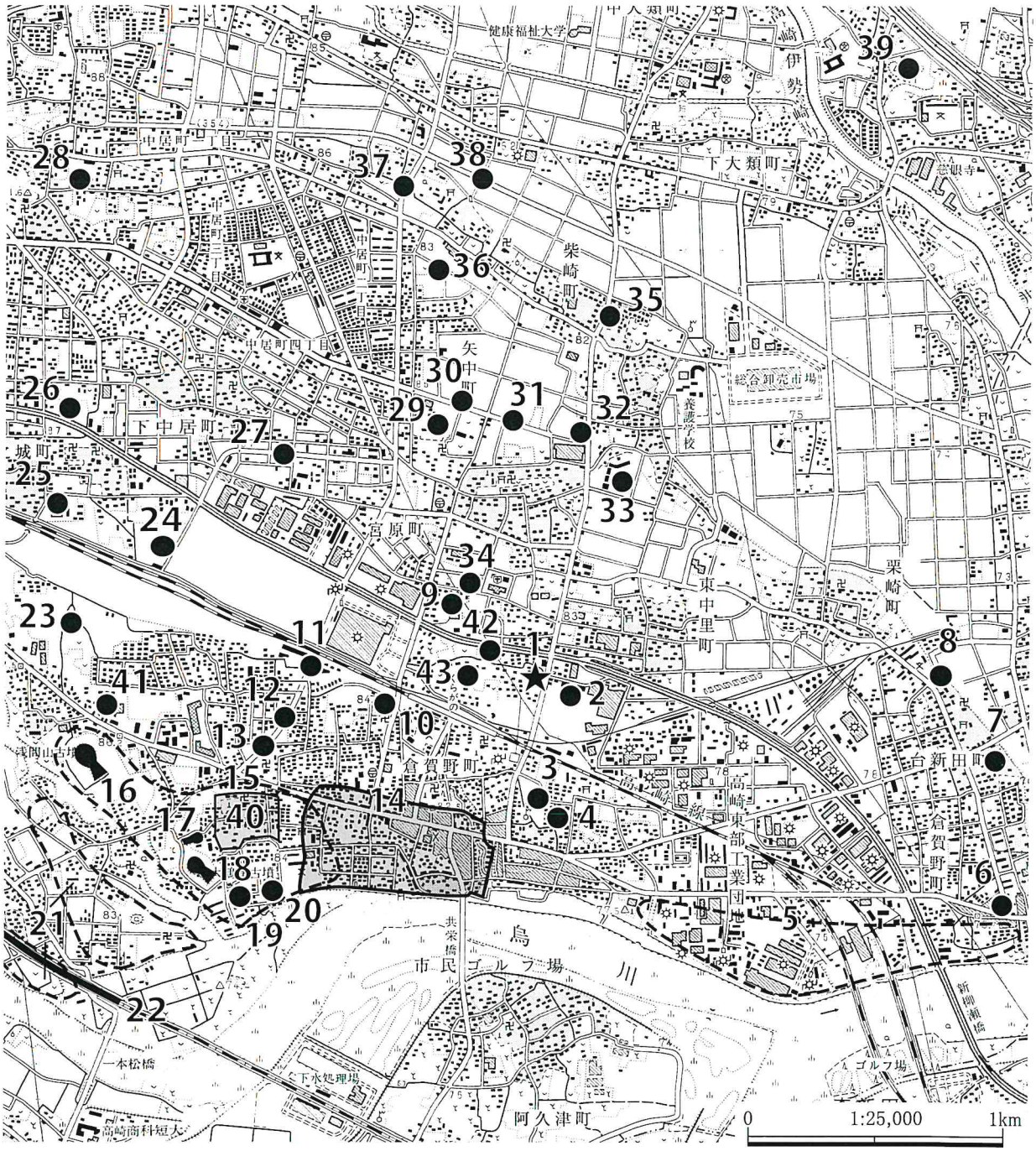
Ⅲ　遺跡の地理的環境と周辺遺跡

群馬県高崎市は、関東平野の北西端に位置しており、西に浅間山、妙義山、北に広大な扇状地を持つ榛名山、赤城山、そして南西から南方にかけては御荷鉾山系、秩父山系等の山々に囲まれ、南東に広大な関東平野を望むことができる環境にある。また、市内には信州県境を源とする烏川が北西から南東方向に流れ、碓氷川や鏑川、井野川等の支流を集めながら利根川と合流している。烏川と井野川に挟まれた地域は高崎台地と呼ばれ、本遺跡はこの台地上にあり、標高は 82.6 mである。

倉賀野辻薬師遺跡は、高崎市市街地の南東方向、国道 17 号線と県道 133 号線の交差点、倉賀野町の信号から南約 100 mに位置し、高崎市倉賀野町字辻薬師に存在する。

周辺遺跡としては、旧石器時代の遺構はないが、岩鼻坂上北遺跡（6）にて倒木痕中から砂質頁岩製尖頭器の出土が確認されている。生活の痕跡が確認されるのは縄文時代中期以降からで、倉賀野万福寺遺跡（19）、下中居条里Ⅰ～Ⅲ遺跡（27）等で住居跡が確認されている。弥生時代に関しては、本遺跡より北西 4.4㎞には竜見町式土器の標識遺跡である竜見町遺跡があり、北西 3.3㎞には高崎競馬場遺跡が周知されるところであるが、ごく周辺での遺跡の検出例は現在確認されていない。遺跡が急増するのは古墳時代になってからで、特に周辺では市内最大級の全長 171.5m の浅間山古墳（16）をはじめ大鶴巻古墳（18）、小鶴巻古墳（17）が群存する倉賀野古墳群（15）がある。また、佐野古墳群（21）、南東方向には大応寺古墳群・大道南古墳群（5）があり、烏川左岸には県内屈指の古墳群が形成されるようになる。また、当該期の集落遺跡としては、下佐野遺跡Ⅱ地区（22）、下中居条里Ⅰ～Ⅲ遺跡（27）、倉賀野万福寺遺跡（19）、倉賀野宮ノ前遺跡（20）、下之城村前Ⅰ～Ⅴ遺跡（23）等があげられる。平安時代においては佐野地区に大集落が形成されるようになり、下佐野遺跡Ⅱ地区（22）では 134 軒の竪穴式住居跡と 18 棟の掘立柱建物跡が検出されている。また、本遺跡に近接している倉賀野中里前遺跡（2）でも竪穴住居跡が 10 軒検出されている。生産遺構としては天仁元（1108）年に浅間山が噴火した際に降灰した火山灰（As-B）に埋没した水田跡が矢中村東A・B・C遺跡（33）、下之城村東Ⅰ・Ⅱ遺跡（24）、下中居条里Ⅰ～Ⅲ遺跡（27）、倉賀野条里Ⅰ～Ⅴ遺跡（13）等数多く発見されており、周辺の低地上には条里制に則って整備された平安時代の水田跡が広範囲に分布しているものと推測される。中世では応永年間に築城されたとされる倉賀野城（14）が、現在の倉賀野市街地から烏川の崖までを占地し、周辺には倉賀野東城（4）、倉賀野西城（40）、上稲荷前屋敷（12）、倉賀野新堀屋敷（41）等の城館の存在が知られる。近世には倉賀野宿が形成され、陸上交通の要衝となり、また、共栄橋付近には倉賀野河岸が建設され、明治期に鉄道が開通するまで、舟運の拠点でもあり、周辺一帯は非常に栄えていた地域である。

高崎市役所からの遠景



1. 本遺跡　2. 倉賀野中里前遺跡　3. 長賀寺古墳　4. 倉賀野東城　5. 大応寺古墳群・大道南古墳群　6. 岩鼻坂上北遺跡　7. 岩鼻・延養寺遺跡　8. 綿貫・台新田遺跡　9. 倉賀野下天神遺跡　10. 永泉寺の砦　11. 倉賀野続橋遺跡　12. 上稲荷前屋敷　13. 倉賀野条里Ⅰ～Ⅴ遺跡　14. 倉賀野城　15. 倉賀野古墳群　16. 浅間山古墳　17. 小鶴巻古墳　18. 大鶴巻古墳　19. 倉賀野万福寺遺跡　20. 倉賀野宮ノ前遺跡　21. 佐野古墳群 22. 下佐野遺跡Ⅱ地区　23. 下之城村前Ⅰ～Ⅴ遺跡　24. 下之城村東Ⅰ・Ⅱ遺跡　25. 下之城村西Ⅱ遺跡　26. 下之城村北Ⅱ遺跡　27. 下中居条里Ⅰ～Ⅲ遺跡　28. 上中居字名室遺跡　29. 宝昌寺裏遺跡　30. 矢中村北Ｄ遺跡　31. 矢中下村北Ⅱ遺跡　32. 矢中瀬ノ内遺跡　33. 矢中村東Ａ・Ｂ・Ｃ遺跡　34. 矢中・村前遺跡　35. 柴崎蟹沢古墳　36. 矢中遺跡群Ⅰ・天王遺跡　37. 西浦・隼人・吹手西遺跡　38. 蟹沢遺跡群Ⅰ～Ⅲ　39. 元島名将軍塚古墳　40. 倉賀野西城　41. 倉賀野新堀屋敷　42. 倉賀野駅北Ⅰ～Ⅵ遺跡　43. 倉賀野上樋越遺跡

第１図　周辺遺跡図　(1/25,000)

第２図　遺跡位置図　(1/2,500)

Ⅳ　基本堆積土層

Ⅰ層は現表土で、15～30cm程堆積している。Ⅱ層はAs-B混土層で、As-A粒と考えられる白色粒を若干含む。本層以下はAs-B粒の含有は認められない。Ⅲ層は黄色粒をやや多く含む黒褐色土で、厚い箇所では約25cm堆積しており、調査区北側で検出された畠跡の覆土である。Ⅳ層は白色軽石（As-C粒か）を含む黒色土で、本層上面が遺構確認面である。現地表から北側調査区にて約45cm下で、南側調査区にて約70cm下となる。Ⅴ層は暗褐色土で、黄色粒及び白色粒を含みⅣ層からⅥ層への漸移層である。Ⅳ層及びⅤ層上面は縄文土器を少量含み、包含層を形成している。Ⅵ及びⅦ層は褐色～黄褐色土で、基盤となる泥流層である。Ⅶ層には拳大の円礫が少量含まれる。Ⅶ層以下の層位は井戸の壁面での観察では約80cm下まで全て黄褐色土で、礫層及び砂層は確認されなかった。

Ⅰ層　暗褐色土　現表土

Ⅱ層　暗褐色土　As-B混土層

Ⅲ層　黒褐色土　黄色粒をやや多く含む
平安時代の畠の耕作土（北側のみの堆積）

遺構確認面（南側GL－70cm　北側GL－45cm）

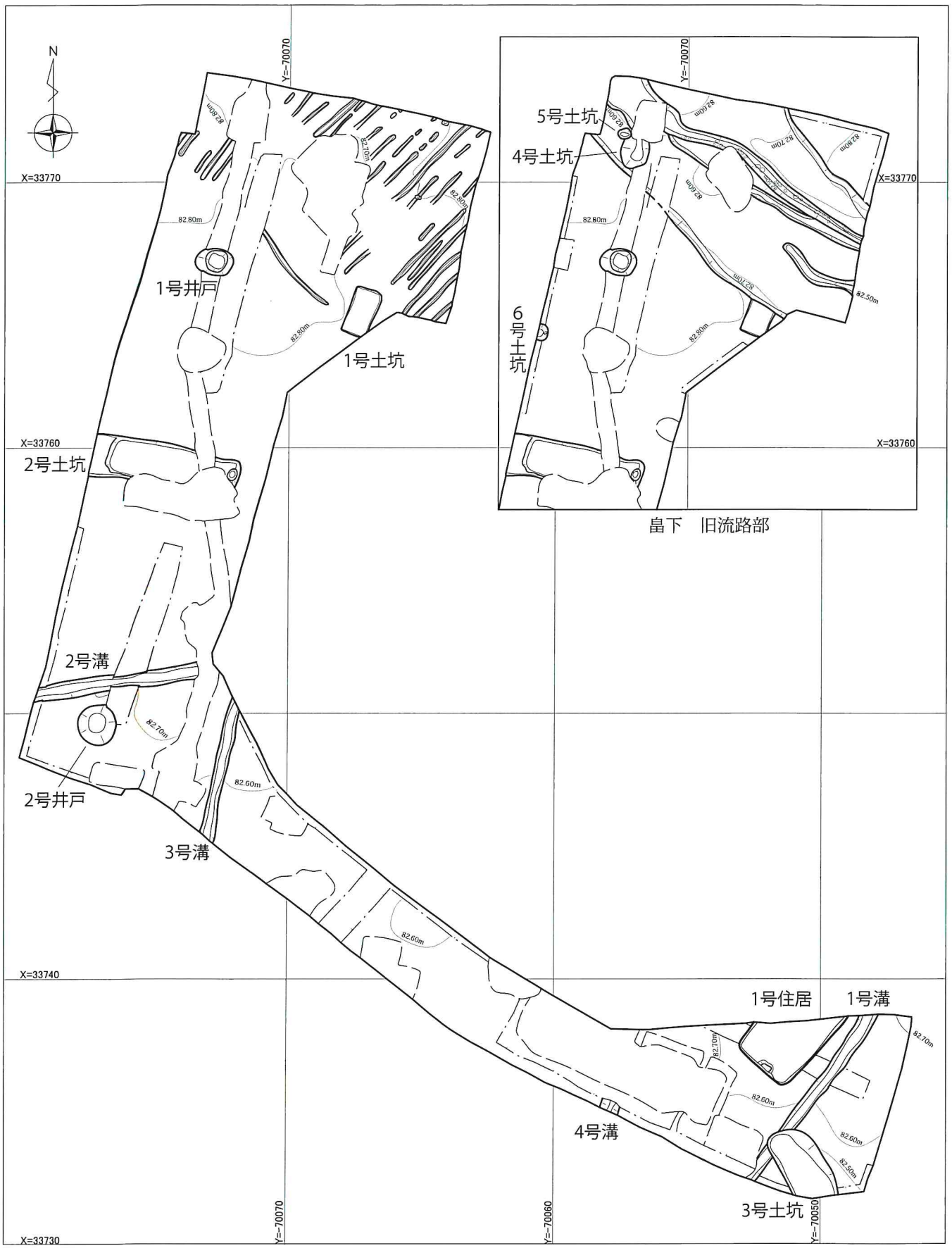
Ⅳ層　黒色土　白色粒及び黄色粒を含む　包含層

Ⅴ層　暗褐色土　漸移層

Ⅵ層　褐色土　基盤層

Ⅶ層　黄褐色土　円礫を少量含む基盤層

第３図　基本堆積柱状図・写真



第４図　遺跡全体図　（1/200）

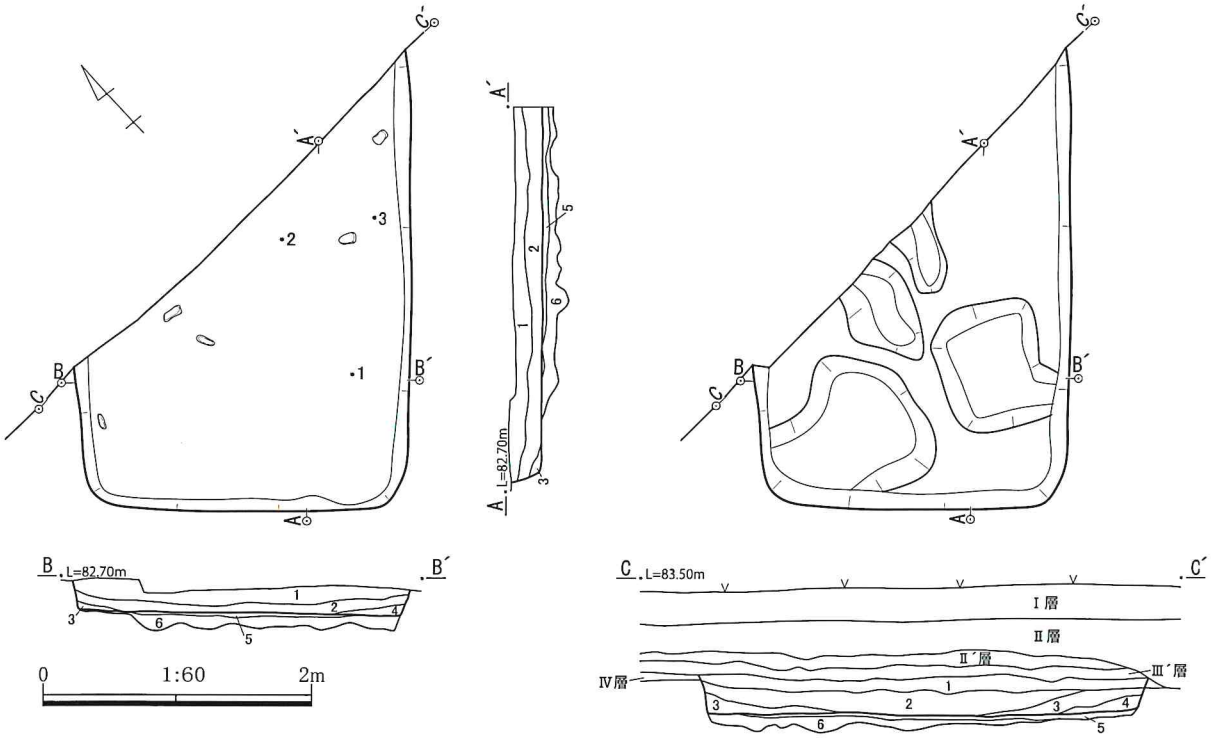
0　1:200　10m

Ⅴ　調査の成果

発掘調査の結果、竪穴住居跡１軒、井戸２基、土坑６基、溝４条、As-B 降下以前の畠跡及びその下層から旧流路を検出した。検出された竪穴住居跡は１軒の為、集落域を推測するのは難しいが、畠跡は北及び北東方向に広がるものと推測される。また、遺構確認面であるⅣ層には縄文土器片が少量含まれ、遺物包含層の形成が伺える。

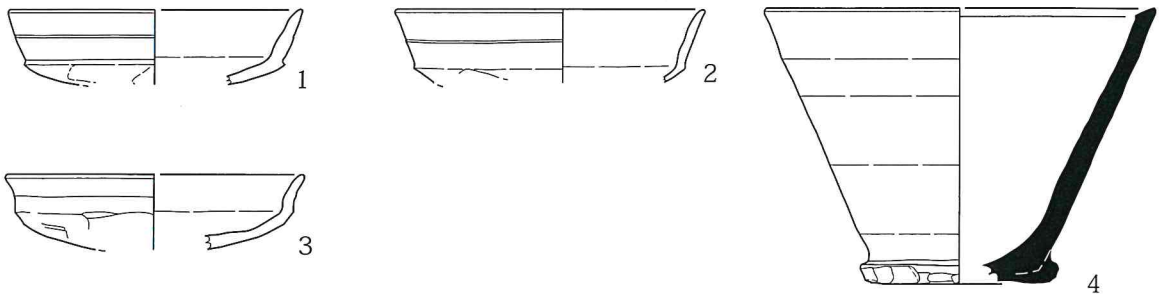
１号住居

調査区南東部にて検出された。北側の一部が調査区外になる為、規模の詳細は不明であるが、長軸 3.5m 以上、短軸 2.54m で平面は長方形と考えられる。主軸方位はＮ－42°－Ｅである。カマドは検出されなかったが、調査区北壁の床面付近は焼土粒及び灰が多く含まれる為、北側に設置されている可能性が考えられる。床面は、地山褐色土と黒褐色土の混土で貼り床され、全体的に硬く硬化している。柱穴及び壁周溝は検出されなかった。遺物は少量出土し、床面からは№１が出土した。№４は覆土中からの出土である。また、住居西側にて菰編み石と推測される細長い礫が３個出土した。掘り方は不整形で凹凸が多い。出土した遺物から帰属時期は７世紀前半であると考えられる。



1. 黒褐色土　粘性弱・しまりややあり　白色軽石（Hr-FP 粒か）をやや多く含み、地山褐色土小ブロック、白色粒及び黄色粒を少量含み、焼土粒、炭化物粒を僅かに含む。
2. 黒褐色土　粘性弱・しまりややあり　地山褐色土小ブロック、白色粒及び黄色粒をやや多く含み、白色軽石（Hf-FP 粒か）、焼土粒、炭化物粒を少量含む。
3. 暗褐色土　粘性弱・しまりややあり　地山褐色土小ブロック及び黄色粒をやや多く含み、白色粒を少量含む。
4. 暗褐色土　粘性弱・しまりややあり　黄色粒をやや多く含み、地山褐色土小ブロックを少量含む。
5. 褐色土　粘性弱・しまり強　地山褐色土小ブロック及び黄色粒を多く含み、焼土粒、炭化物粒を含む。上面は非常に硬くしまる貼床。
6. 暗褐色土　粘性弱・しまりややあり　地山褐色土小ブロック及び黄色粒を多く含む。掘り方

Ⅲ´層　黒褐色土　粘性弱・しまりあり　白色粒及び黄色粒を少量含む。基本堆積土層Ⅲ層に対応するが、本層は耕作土ではない。



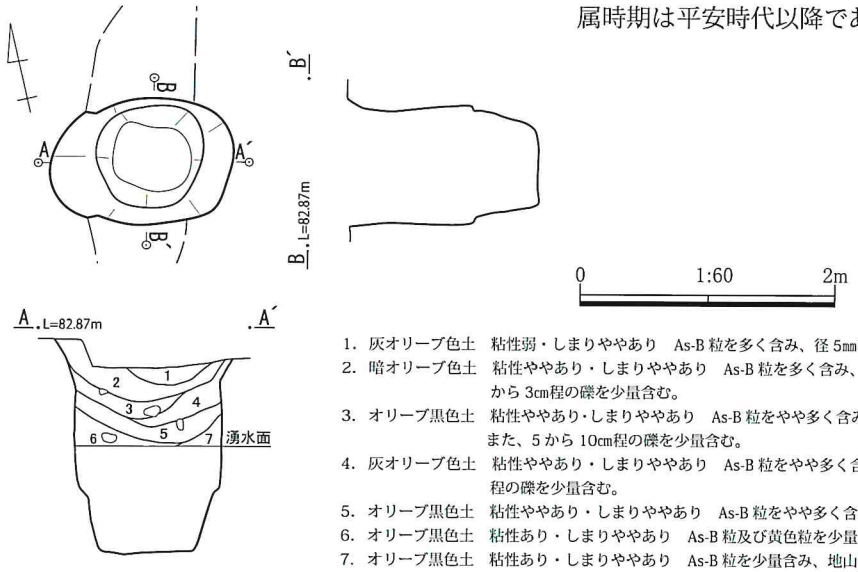
第５図　１号住居　平面・断面図　掘り方平面図（1/60）　出土遺物図　（1/3）

第１表　１号住居遺物観察表（単位cm）

番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・〈残高〉	整形・調整・文様等	胎土	焼成（質感） 色
1	土師器 坏	１号住居 床面	11.0・　－ 〈3.0〉	外面：口縁部ヨコナデ　１条の沈線あり（２段口縁状）　体部～底部ヘラ削り 内面：口縁部～体部ヨコナデ　底部ナデ	細砂粒・白色粒	良好（硬質） 橙色
2	土師器 坏	１号住居 覆土	11.2・　－ 〈2.9〉	外面：口縁部ヨコナデ　１条の沈線あり（２段口縁状）　体部～底部ヘラ削り 内面：口縁部～体部ヨコナデ　底部ナデ	細砂粒・白色粒	やや不良（軟質） にぶい橙色
3	土師器 坏	１号住居 掘り方	11.2・　－ 〈3.0〉	外面：口縁部ヨコナデ　体部～底部ヘラ削り 内面：口縁部～体部ヨコナデ　底部ナデ	細砂粒・白色粒	良好（硬質） 橙色
4	須恵器 平底鉢	１号住居 覆土	15.4・　7.8 11.0	外面：ロクロ整形　底部縁手持ちヘラ削り　底部手持ちヘラ削り　内面：ロクロ整形　口唇部平坦面あり	細砂粒・白色粒	良好（硬質） 灰色

１号井戸

調査区北西部にて検出された。規模は、長軸 1.38m、短軸 1.01m、深さ 1.68m を測る。平面形は円形で断面形は筒形であるが、上部はややラッパ状に広がり、底面から 48cm上で段が作られている。構築材と考えられる木製品及び礫等は検出されず、素掘りの状態である。覆土には As-B 粒が含まれ、中層では地山褐色土小ブロックを多く含む層が堆積している。確認面から 87cmにて湧水が認められた。壁面は湧水による侵食等は確認されず、掘削時の作業痕等も確認されなかった。底面は平坦で、集石等は確認されなかった。遺物は確認されなかった。覆土中に As-B 粒が含まれることから、帰属時期は平安時代以降であると推測される。

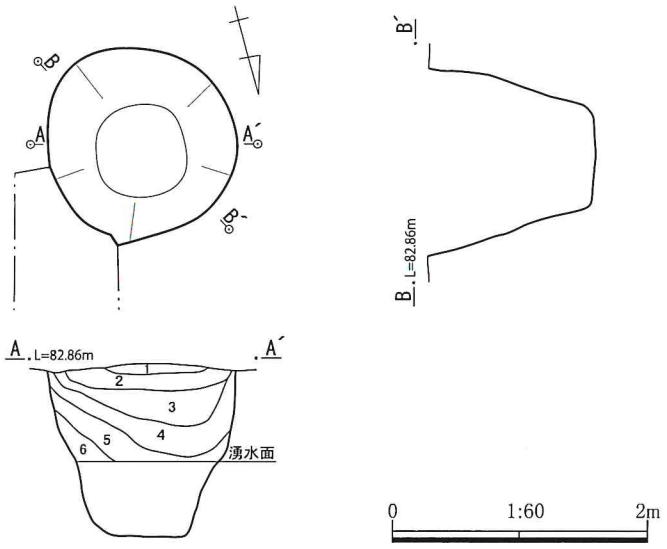


1. 灰オリーブ色土　粘性弱・しまりややあり　As-B 粒を多く含み、径 5mm程の白色軽石及び炭化物粒を少量含む。
2. 暗オリーブ色土　粘性ややあり・しまりややあり　As-B 粒を多く含み、地山黄色土小ブロックをやや多く含む。また、径 1 から 3cm程の礫を少量含む。
3. オリーブ黒色土　粘性ややあり・しまりややあり　As-B 粒をやや多く含み、地山黄色土小ブロック及び黄色粒をやや多く含む。また、5 から 10cm程の礫を少量含む。
4. 灰オリーブ色土　粘性ややあり・しまりややあり　As-B 粒をやや多く含み、地山黄色土小ブロック及び黄色粒、1 から 2cm程の礫を少量含む。
5. オリーブ黒色土　粘性ややあり・しまりややあり　As-B 粒をやや多く含み、地山黄色土小ブロック及び黄色粒を少量含む。
6. オリーブ黒色土　粘性あり・しまりややあり　As-B 粒及び黄色粒を少量含む。
7. オリーブ黒色土　粘性あり・しまりややあり　As-B 粒を少量含み、地山黄色土小ブロック及び黄色粒を僅かに含む。

第６図　１号井戸　平面・断面図　(1/60)

２号井戸

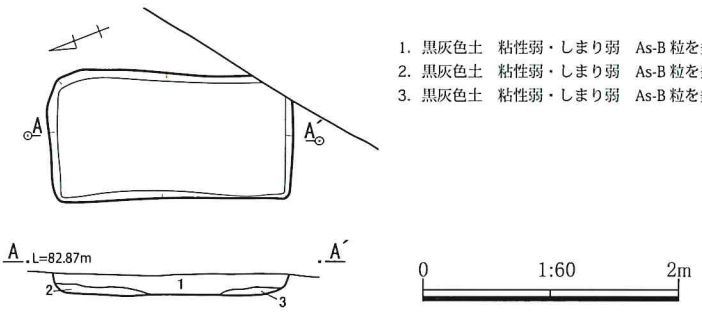
調査区南西部にて検出された。規模は、長軸 1.48m、短軸 91cm、深さ 1.38m を測り、平面形は円形で断面形は逆台形状である。構築材と考えられる木製品及び礫等は検出されず、素掘りの状態である。覆土には As-B 粒が含まれ、中層では地山褐色土小ブロックを少量含む層が堆積している。確認面から 58cmにて湧水が認められた。壁面は湧水による侵食等は確認されず、掘削時の作業痕等も確認されなかった。底面は平坦で、集石等は確認されなかった。遺物は確認されなかった。覆土中に As-B 粒が含まれることから、帰属時期は平安時代以降であると推測される。



1. 灰オリーブ色土　粘性弱・しまりややあり　As-B 粒を多く含み、白色粒及び黄色粒を少量含む。
2. オリーブ黒色土　粘性弱・しまりややあり　As-B 粒を多く含み、径 5㎜程の灰色軽石（As-A 粒か）を少量含む。
3. オリーブ色土　粘性ややあり・しまりややあり　As-B 粒を多く含み、径 5㎜程の灰色軽石（As-A 粒か）及び地山黄色土小ブロック、黄色粒を少量含む。
4. 暗オリーブ褐色土　粘性ややあり・しまりややあり　As-B 粒を多く含み、地山黄色土小ブロック及び黄色粒をやや多く含む。
5. オリーブ黒色土　粘性あり・しまりあり　As-B 粒を多く含み、地山黄色土小ブロック及び黄色粒を少量含む。
6. オリーブ黒色土　粘性あり・しまりあり　As-B 粒をやや多く含み、地山黄色土小ブロック及び黄色粒を少量含む。

1 号土坑

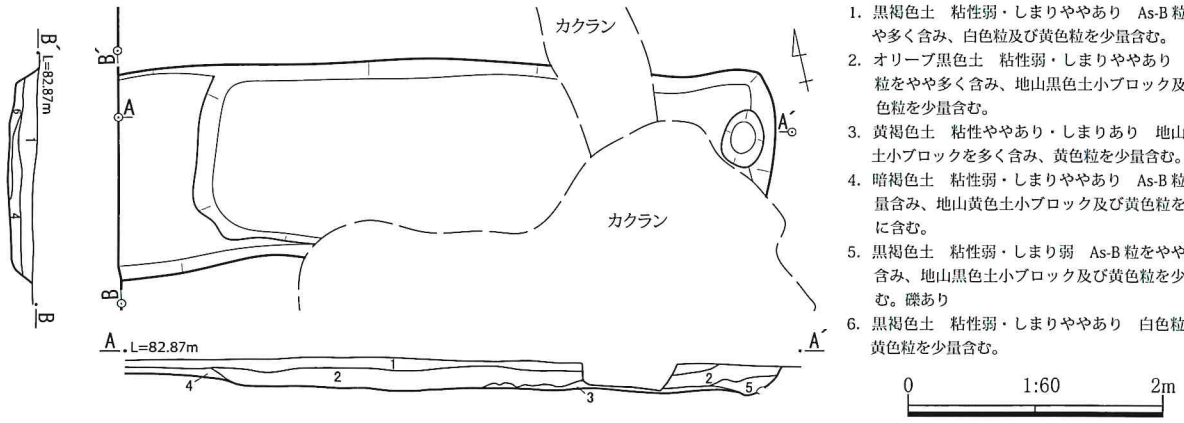
調査区北側にて検出された。規模は、長軸 2.00m、短軸 1.04m、深さ 16㎝で平面形態は隅丸長方形である。断面形は箱状で、底面は平坦である。遺物は検出されなかった。覆土中に As-B 粒が含まれる為、帰属時期は平安時代以降であると考えられる。



1. 黒灰色土　粘性弱・しまり弱　As-B 粒を多く含み、白色軽石及び炭化物粒を少量含む。
2. 黒灰色土　粘性弱・しまり弱　As-B 粒を多く含み、炭化物粒及び黄色粒を少量含む。
3. 黒灰色土　粘性弱・しまり弱　As-B 粒を多く含み、地山暗褐色土小ブロック及び黄色粒を少量含む。

2 号土坑

調査区西側にて検出された。西側が一部調査区外になる為、長軸は不明である。規模は、長軸 5.05m 以上、短軸 1.54m、深さ 25㎝で平面形態は隅丸長方形と推測される。断面形は箱状で、底面は浅い凹凸が多い。遺物は検出されなかった。覆土中に As-B 粒が含まれる為、帰属時期は平安時代以降であると考えられる。

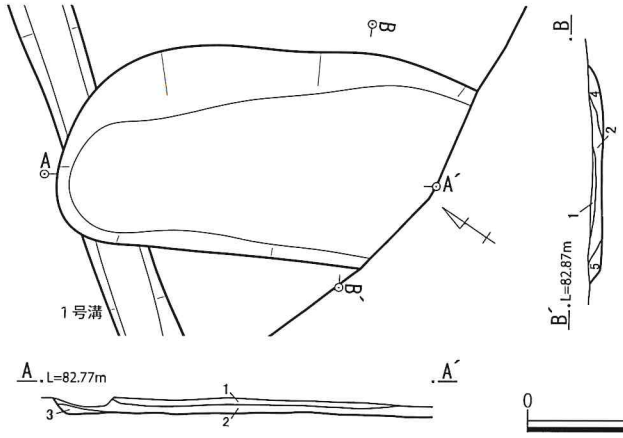


1. 黒褐色土　粘性弱・しまりややあり　As-B 粒をやや多く含み、白色粒及び黄色粒を少量含む。
2. オリーブ黒色土　粘性弱・しまりややあり　As-B 粒をやや多く含み、地山黒色土小ブロック及び黄色粒を少量含む。
3. 黄褐色土　粘性ややあり・しまりあり　地山黄色土小ブロックを多く含み、黄色粒を少量含む。
4. 暗褐色土　粘性弱・しまりややあり　As-B 粒を少量含み、地山黄色土小ブロック及び黄色粒を僅かに含む。
5. 黒褐色土　粘性弱・しまり弱　As-B 粒をやや多く含み、地山黒色土小ブロック及び黄色粒を少量含む。礫あり
6. 黒褐色土　粘性弱・しまりややあり　白色粒及び黄色粒を少量含む。

第 7 図　2 号井戸　1・2 号土坑　平面・断面図　(1/60)

3号土坑

調査区南東部にて検出された。1号溝と重複関係にあり、本遺構の方が古いと考えられる。南側が一部調査区外になる為、長軸は不明である。規模は、長軸 2.91m 以上、短軸 1.71m、深さ 12㎝で平面形態は楕円形であると推測される。断面形は皿状で、底面は平坦である。遺物は、覆土中より土師器の小破片が少量出土した。覆土には As-B 粒が含まれず、出土した遺物及び重複関係から、帰属時期は古墳時代であると推測される。



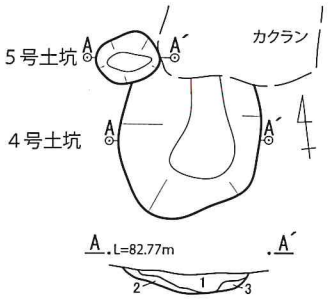
1. 黒褐色土　粘性ややあり・しまりややあり　白色粒及び黄色粒を少量含む。
2. 暗褐色土　粘性ややあり・しまりややあり　地山暗褐色土小ブロックを少量含み、白色粒及び黄色粒を含む。
3. 暗褐色土　粘性ややあり・しまりややあり　地山褐色土小ブロック、白色粒及び黄色粒を少量含む。
4. 暗オリーブ褐色土　粘性ややあり・しまりややあり　地山暗褐色土小ブロックをやや多く含み、白色粒及び黄色粒を少量含む。
5. 暗オリーブ褐色土　粘性ややあり・しまりややあり　地山暗褐色土小ブックを多く含む。

4号土坑

調査区北西部にて検出された。5号土坑と重複関係にあるが、前後関係は不明である。東側一部が撹乱により破壊される為、長軸は不明である。規模は、長軸 1.12m 以上、短軸 1.05m、深さ 16㎝で平面形態は不整形である。断面形は皿状で、底面は凹凸が多い。遺物は検出されなかった。畠跡下からの検出の為、帰属時期は平安時代以前であると推測される。

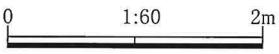
5号土坑

調査区北西部にて検出された。4号土坑と重複関係にあるが、前後関係は不明である。規模は、長軸 49㎝、短軸 41㎝、深さ 23㎝を測り、平面形態は楕円形で、断面形はU字状である。遺物は検出されなかった。4号土坑同様に畠跡下からの検出の為、帰属時期は平安時代以前であると推測される。



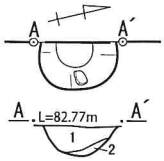
4号土坑
1. 黒褐色土　粘性弱・しまりややあり　白色粒をやや多く含み、黄色粒及び地山黄色土小ブロックを少量含む。
2. オリーブ褐色土　粘性弱・しまりややあり　地山黄色土小ブロック及び黄色粒をやや多く含み、白色粒を少量含む。やや砂質。
3. オリーブ褐色土　粘性弱・しまりややあり　地山黄色土小ブロック及び黄色粒をやや多く含む。

5号土坑
1. 黒褐色土　粘性ややあり・しまりややあり　地山黄褐色土小ブロック及び黄色粒を少量含む。

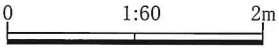


6号土坑

調査区西側にて検出された。西側一部が調査区外になる為、長軸は不明である。規模は、東西 38㎝、南北 67㎝以上、深さ 23㎝を測り、平面形態は楕円形と推測される。断面形はU字状である。遺物は検出されなかった。Ⅳ層下からの検出の為、帰属時期は古墳時代若しくは、それ以前であると推測される。



1. オリーブ黒色土　粘性弱・しまりややあり　白色粒及び黄色粒をやや多く含み、暗地山褐色土小ブロックを少量含む。
2. 暗オリーブ色土　粘性弱・しまりややあり　地山暗褐色土小ブロックをやや多く含み、白色粒及び黄色粒を少量含む。



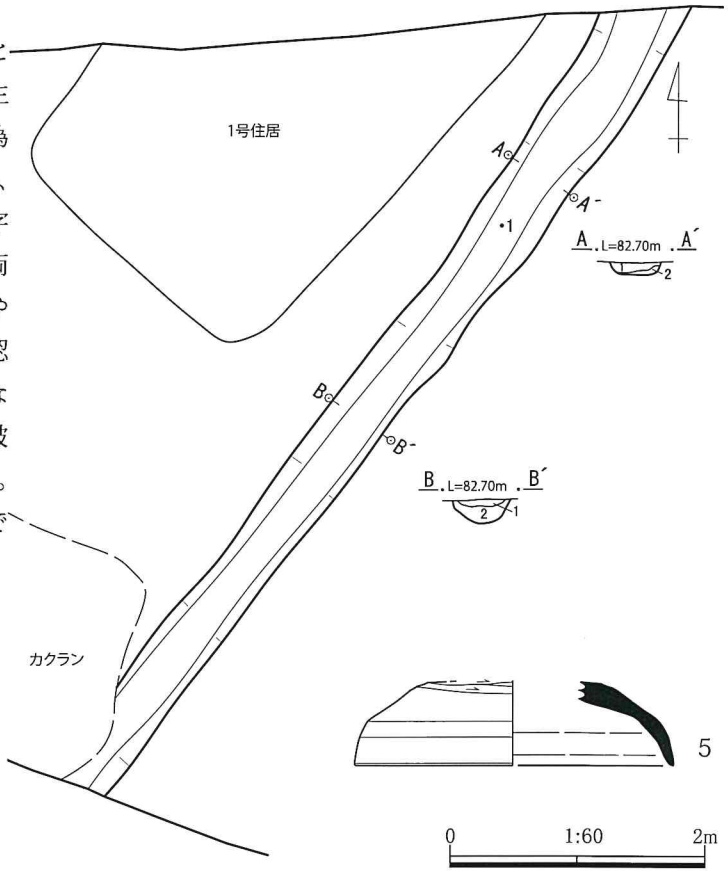
第8図　3～6号土坑　平面・断面図　(1/60)

1号溝

調査区南東側にて検出された。1号住居と隣接しており、付帯施設と推測されたが、主軸方向が若干が異なり、南西方向に延びる為単体の溝とした。規模は、長さ7.58m以上、幅62㎝、深さ18㎝を測り、断面形はU字状である。主軸方向はN－36°－Eで、両端での高低差は約9㎝あり、南西方向に緩やかに傾斜する。覆土には砂礫層の堆積は確認されず、流水を受けた堆積状況は認められなかった。遺物は覆土中よりS字台付甕の小破片及び土師器、須恵器の小破片が出土した。出土した遺物等から帰属時期は7世紀代であると推測される。

SP A
1. オリーブ黒色土　粘性弱・しまりややあり　白色粒及び黄色粒を少量含む。
2. オリーブ黒色土　粘性ややあり・しまりややあり　白色粒及び黄色粒を少量含み、地山暗褐色土小ブロックを僅かに含む。

SP B
1. オリーブ黒色土　粘性弱・しまりややあり　黄色粒、白色粒及び径0.5～1㎝の白色軽石を少量含む。
2. オリーブ黒色土　粘性弱・しまりややあり　白色粒、黄色粒及び地山褐色土小ブロックを少量含む。

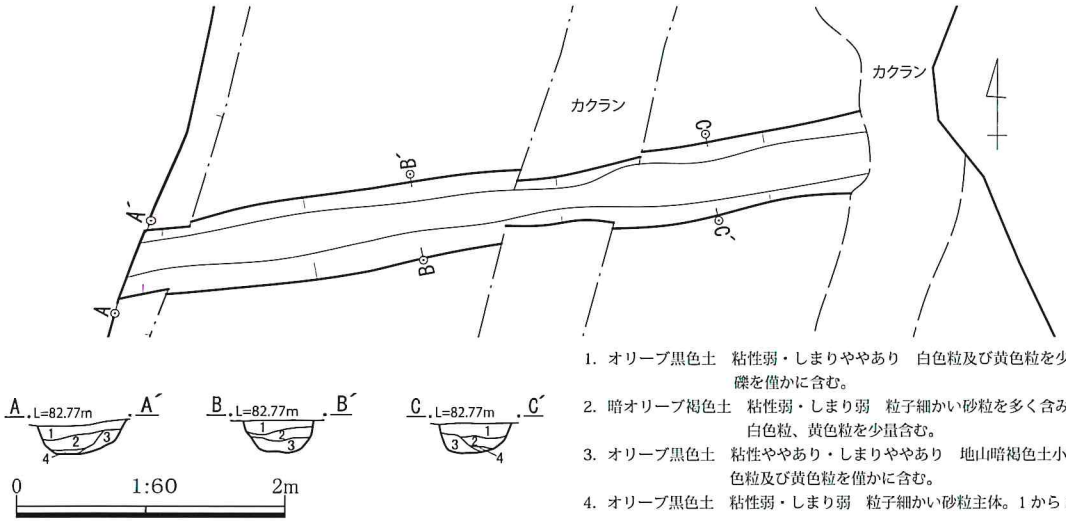


第2表　1号溝遺物観察表（単位㎝）

番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・〈残高〉	整形・調整・文様等	胎土	焼成（質感） 色
5	須恵器 蓋	1号溝 覆土	12.6・　－ 〈3.3〉	外面：天井部ヘラ削り　体部～口縁部ロクロ整形 内面：ロクロ整形	細砂粒・白色粒	良好（硬質） 灰色

2号溝

調査区南西側にて検出された。規模は、長さ5.62m以上、幅58㎝、深さ26㎝を計り、断面形はU字状である。主軸方向はN－80°－Eで、両端での高低差は約7㎝あり、西方向に緩やかに傾斜する。覆土下層には砂礫層が堆積しており、流水があったと考えられる。遺物は覆土中より土師器坏の小破片が出土した。出土した遺物等から帰属時期は古墳時代であると推測される。

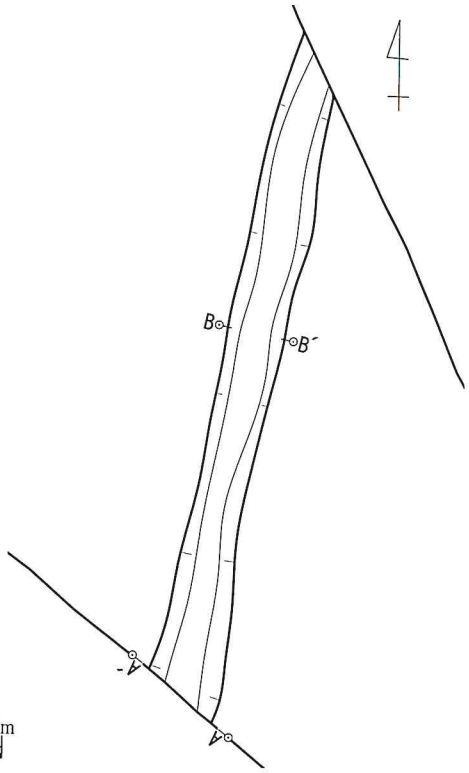


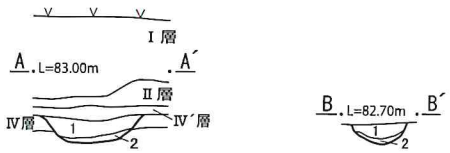
1. オリーブ黒色土　粘性弱・しまりややあり　白色粒及び黄色粒を少量含み、1から2㎝程の礫を僅かに含む。
2. 暗オリーブ褐色土　粘性弱・しまり弱　粒子細かい砂粒を多く含み、1から2㎝程の礫及び白色粒、黄色粒を少量含む。
3. オリーブ黒色土　粘性ややあり・しまりややあり　地山暗褐色土小ブロックを少量含み、白色粒及び黄色粒を僅かに含む。
4. オリーブ黒色土　粘性弱・しまり弱　粒子細かい砂粒主体。1から2㎝程の礫を少量含む。

第9図　1・2号溝　平面・断面図（1/60）　出土遺物図（1/3）

3号溝

調査区南西部にて検出された。規模は、長さ5.15m以上、幅53cm、深さ17cmを測り、断面形はU字状である。主軸方向はN－13°－Eで、両端での高低差は約7cmあり、南方向に緩やかに傾斜する。覆土には砂礫層の堆積は確認されず、流水を受けた堆積状況は認められなかった。遺物は覆土中より土師器坏の小破片が出土した。出土した遺物等から帰属時期は古墳時代であると推測される。



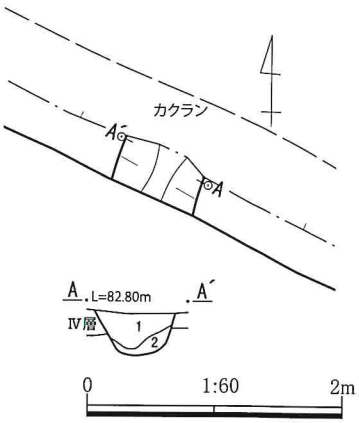


1. オリーブ黒色土　粘性ややあり・しまりややあり　白色粒及び黄色粒をやや多く含み、1～2cm程の礫を僅かに含む。
2. 黄褐色土　粘性ややあり・しまりややあり　地山黄色土小ブロックを多く含み、白色粒、黄色粒を少量含む。

0　1:60　2m

4号溝

調査区南東部にて検出された。ほとんどが撹乱により破壊されている為、主軸方向及び規模は不明であるが、延長線上の調査区北壁に若干の痕跡が確認できた。確認された長さは38cm、幅71cm、深さ34cmを測り、断面形はU字状である。覆土には砂礫層の堆積は確認されず、流水を受けた堆積状況は認められなかった。遺物は検出されなかった。帰属時期は不明であるが、覆土の含有物及び堆積状況は2、3号溝とほぼ同様の為、帰属時期は古墳時代であることが推測される。

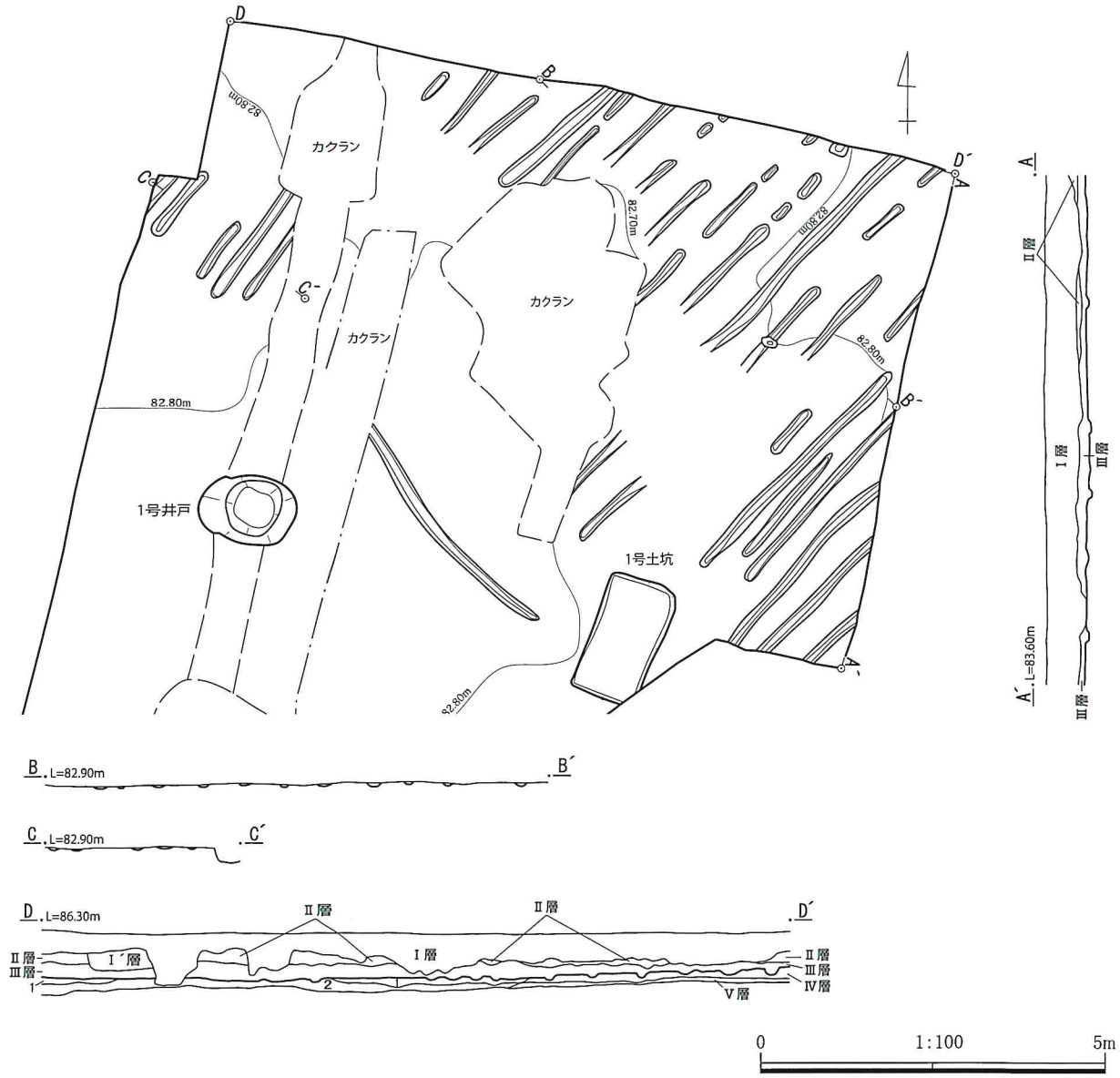


1. オリーブ黒色土　粘性ややあり・しまりややあり　白色粒及び黄色粒を少量含み、地山暗褐色土小ブロックを僅かに含む。
2. オリーブ黒色土　粘性あり・しまりややあり　地山暗褐色土小ブロックをやや多く含み、白色粒及び黄色粒を少量含む。

畠

調査区北側にて検出された。ほとんどが畝溝の確認で、作付け面は検出されなかった。畝溝間の間隔は狭い箇所で約8cm、広い箇所で78cmである。ただし、広い箇所では中間の畝溝が削平されたか、確認面より浅い為検出されなかった可能性も推測され、概ね8から10cm間隔であったと考えられる。確認面からの畝溝の深さは2～5cm前後である。北東から南西方向に耕作された畝溝は20条あり、耕作の主軸方向はN－43°－Eである。これらとは方向が異なる畝溝が南側に1条あり、これ以南では、畝溝は検出されなかった。この畝溝は規模及び覆土の特徴等は他の畝溝と同様であるが、区画的要素が深い溝である可能性が指摘される。また、交差及び重複する畝溝は確認されなかった。耕作土の厚さは調査区北壁の断面観察にて厚い箇所で約25cmあり（第11図・PL6参照）、上層はAs-B粒混土層である。畠跡は調査区北側のみの検出で、他地点では検出されなかった。また、調査区各壁の断面観察においても、耕作土と考えられる土壌は畝溝が検出された周辺のみの為、畠跡は本遺跡の北及び北東側に広がっているものと推測される。調査区内での耕作面積は約71㎡である。遺物は検出されなかったが、耕作土にはAs-B粒が確認されない為、帰属時期は平安時代以前であると推測される。

第10図　3・4号溝　平面・断面図　(1/60)



SP A・D

Ⅰ層　基本堆積Ⅰ層　暗褐色土　粘性なし・しまり弱　As-B 粒、白色軽石（As-A 粒か）をやや多く含み、黄色粒及び暗褐色土小ブロックを少量含む。現表土及び耕作土

Ⅱ層　基本堆積Ⅱ層　オリーブ黒色土　粘性弱・しまりややあり　As-B 粒をやや多く含み、白色軽石（As-A 粒か）、白色粒及び黄色粒を少量含む。

Ⅲ層　基本堆積Ⅲ層　オリーブ褐色土　粘性弱・しまりややあり　白色粒及び黄色粒をやや多く含み、白色軽石（Hr-FP 粒か）を少量含む。平安時代耕作土

Ⅳ層　基本堆積Ⅳ層　黒褐色土　粘性ややあり・しまりあり　白色粒及び黄色粒を少量含み、白色軽石（As-C 粒か）を少量含む。

Ⅴ層　基本堆積Ⅴ層　オリーブ褐色土　粘性ややあり・しまりあり　白色粒及び黄色粒を少量含む。漸移層

SP D

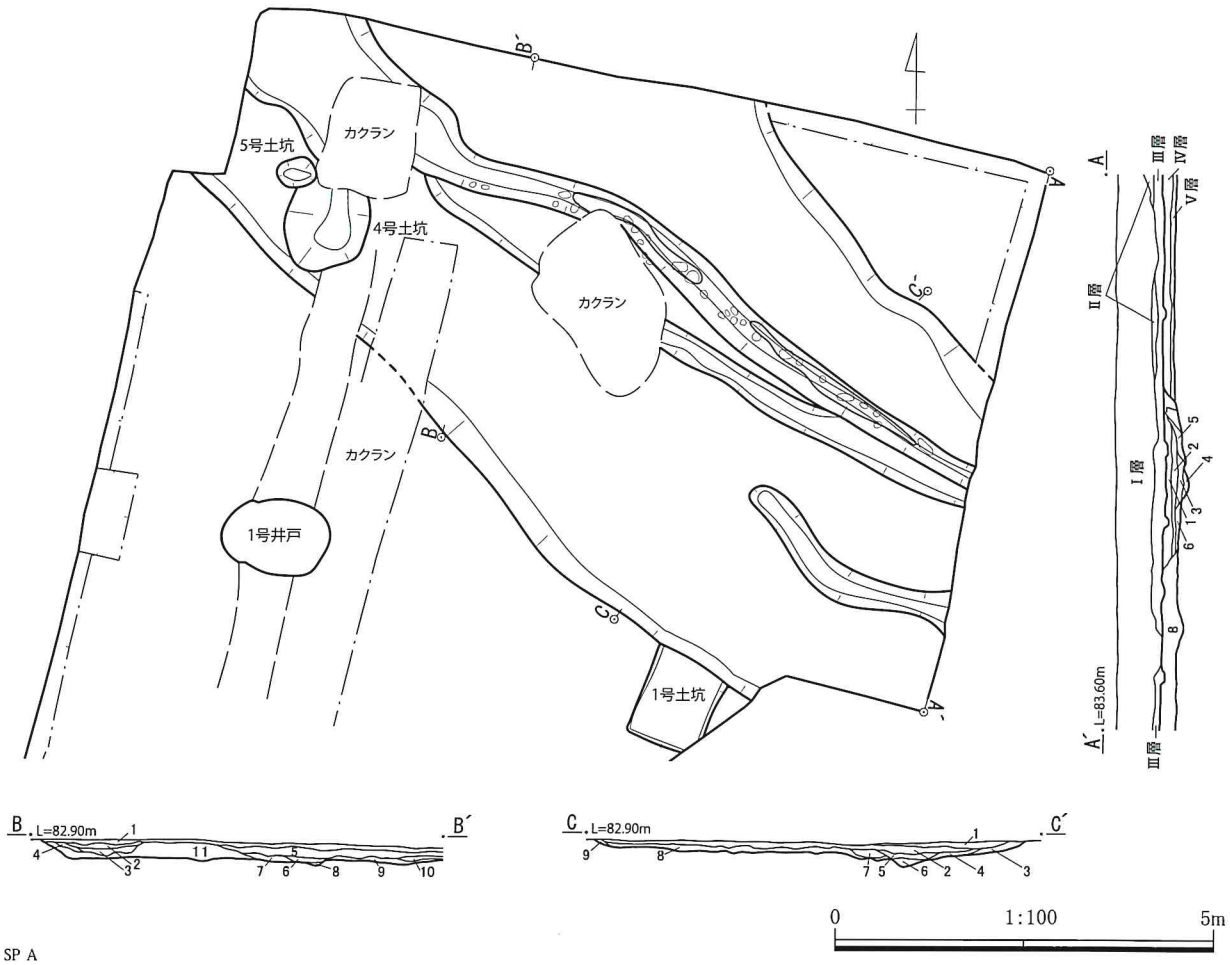
1. 黒褐色土　粘性弱・しまりややあり　やや砂質。白色粒及び黄色粒を少量含む。基本堆積Ⅳ層に似る。旧流路覆土

2. 黒褐色土　粘性ややあり・硬くしまる　やや砂質。地山黄色土小ブロックをやや多く含み、1 から 2cm程の礫、白色粒及び黄色粒を含む。旧流路覆土

第 11 図　畠跡　平面・断面図　(1/100)

旧流路（埋没河川）

調査区北側にて検出された。長さ 12.3m 以上、幅 5.92m、深さ 32cmで主軸方向はＮ－48°－Ｗである。若干蛇行しながら北西から南東方向へ緩やかに傾斜している。西端と東端での底面の高低差は約 6cmである。覆土上層は畠跡の耕作土で、部分的にやや砂質である。底部には砂礫層の堆積が認められ、Ｓ字台付甕の小破片がこの砂層中から出土した。また、覆土には As-B 粒は含まれず、少量の土師器片が検出されている。帰属時期の判断は難しいが、流路として機能を失ったのは古墳時代から奈良時代頃と推測され、As-B 降下以前には完全に埋没し、周辺は畠として利用されたものと考えられる。



SP A

1. 暗オリーブ褐色土　粘性弱・しまりややあり　白色粒、黄色粒を少量含み、1から3cm大の礫を少量含む。
2. 暗オリーブ褐色土　粘性弱・しまりややあり　白色粒、黄色粒、地山暗褐色土小ブロックを少量含み、1から3cm大の礫を極少量含む砂質土。
3. オリーブ褐色土　粘性弱・しまりあり　地山褐色土小ブロックをやや多く含み、1から3cm大の礫及び白色粒、黄色粒を少量含む砂質土。
4. 暗灰色土　粘性なし・硬くしまる　粒子細かい砂主体で、1から3cm大の礫を多く含む。
5. オリーブ黒色土　粘性ややあり・しまりややあり　白色粒、黄色粒を含み、地山暗褐色土小ブロックを少量含む。
6. 暗オリーブ褐色土　粘性ややあり・しまりややあり　地山暗褐色土小ブロックを多く含み、1から3cm大の礫及び黄色粒を少量含む。
7. オリーブ黒色土　粘性ややあり・しまりあり　白色粒、黄色粒を少量含む。基本堆積Ⅳ層に似る。
8. オリーブ色土　粘性弱・しまりややあり　地山暗褐色土小ブロック、白色粒、黄色粒を含み、1から3cm大の礫を少量含む。

SP B

1. 暗灰黄色土　粘性弱・しまりややあり　粒子細かい砂粒をやや多く含み、白色粒、黄色粒を少量含む。基本堆積Ⅲ層に似る。
2. オリーブ褐色土　粘性弱・やや硬くしまる　粒子細かい砂粒をやや多く含み、1層の小ブロックを少量含む。部分的に鉄分の沈着が認められる。
3. 暗オリーブ褐色土　粘性なし・硬くしまる　粒子細かい砂粒を多く含み、1から3cm大の礫を少量含む。
4. オリーブ黒色土　粘性なし・やや硬くしまる　粒子細かい砂粒を多く含み、1層の小ブロックを少量含む。
5. 暗オリーブ褐色土　粘性弱・しまりややあり　粒子細かい砂粒を多く含み、1から3cm大の礫を少量含む。部分的に鉄分の沈着が認められる。
6. 暗オリーブ色土　粘性なし・硬くしまる　粒子細かい砂粒主体。1から3cm大の礫を少量含む。
7. 暗オリーブ色土　粘性弱・やや硬くしまる　砂粒を多く含み、地山黄褐色土小ブロック及び黄色粒を少量含む。部分的に鉄分の沈着が認められる。
8. オリーブ黒色土　粘性なし・やや硬くしまる　粒子細かい砂粒主体。若干ラミナ状堆積が認められる。黄色粒及び1から3cm大の礫を少量含む。
9. 暗オリーブ色土　粘性弱・硬くしまる　地山黄褐色土小ブックをやや多く含み、砂粒及び黄色粒を多く含む。
10. 暗オリーブ褐色土　粘性弱・やや硬くしまる　粒子細かい砂粒を多く含み、1から3cm大の礫及び黄色粒を少量含む。
11. オリーブ黒色土　粘性弱・やや硬くしまる　粒子細かい砂粒を多く含み、地山暗褐色土小ブロック及び1から3cm大の礫を少量含む。

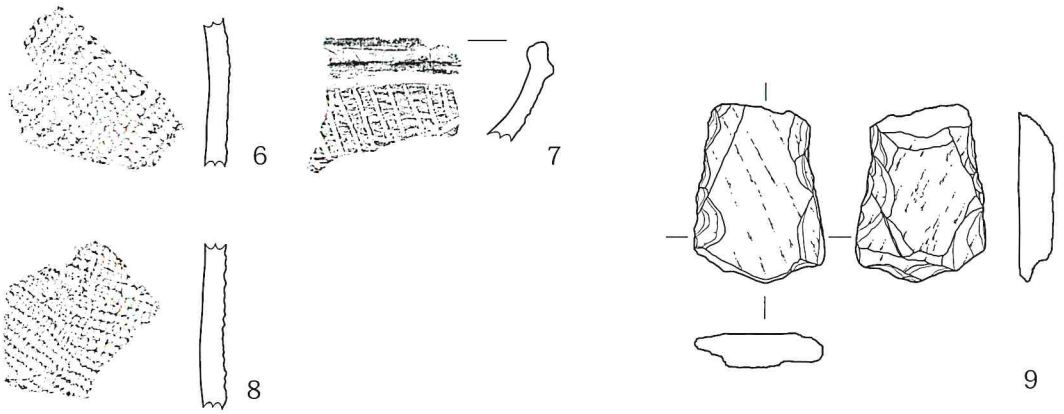
SP C

1. 暗灰黄色土　粘性弱・しまりややあり　粒子細かい砂粒をやや多く含み、白色粒、黄色粒を少量含む。基本堆積Ⅲ層に似る。
2. 暗オリーブ褐色土　粘性弱・しまりややあり　粒子細かい砂粒をやや多く含み、白色粒、黄色粒を少量含む。部分的に鉄分の沈着が認められる。
3. 暗オリーブ褐色土　粘性弱・しまりあり　粒子細かい砂粒をやや多く含み、地山黄褐色土小ブロックをやや多く含む。
4. オリーブ黒色土　粘性弱・しまりあり　粒子細かい砂粒を多く含み、地山黄褐色土小ブロックを少量含む。
5. 暗オリーブ褐色土　粘性弱・硬くしまる　粒子細かい砂粒を多く含み、白色粒、黄色粒を少量含み。
6. オリーブ黒色土　粘性なし・やや硬くしまる　粒子細かい砂粒がラミナ状に堆積する。1から2cm大の礫をやや多く含む。
7. オリーブ黒色土　粘性ややあり・やや硬くしまる　砂粒を多く含み、地山黄褐色土小ブロック及び黄色粒を少量含む。
8. オリーブ黒色土　粘性弱・やや硬くしまる　砂粒を多く含み、地山黄褐色土小ブロック、黄色粒及び1から3cm大の礫を少量含む。
9. 暗オリーブ褐色土　粘性弱・やや硬くしまる　砂粒を少量含み、白色粒及び黄色粒を僅かに含む。

第12図　旧流路　平面・断面図　(1/100)

縄文包含層

調査区ほぼ全域に堆積が認められ、基本堆積土層のⅣ層が該当する。上面は今回の遺構確認面である。特に遺物が多く検出されたのが調査区南西部である。包含層には焼土及び炭化物粒等は含まれず、白色軽石と黄色粒を少量含む黒色土で、均一した堆積をしている。調査区北西部での厚さは約 15cmで、南東側では約 20cmである。旧地形が北西から南東へ向い緩やかに傾斜している為、南東側ではより厚く堆積する傾向にある。全ての遺構の調査終了後、Ⅳ層を慎重に掘下げ、縄文時代の遺構の確認作業を行った。結果、当該期の遺構は確認出来なかったが、計 11 個の縄文土器片と 1 点の石器が検出された。図示できたのは下記の通りである。包含層形成要因については不明であるが、出土した各遺物は摩滅がほとんど無い為、近接して遺構の存在が考えられる。地形及び出土状況から本遺跡の西側に求められると推測される。



第 13 図　縄文包含層　出土遺物図　(1/3)

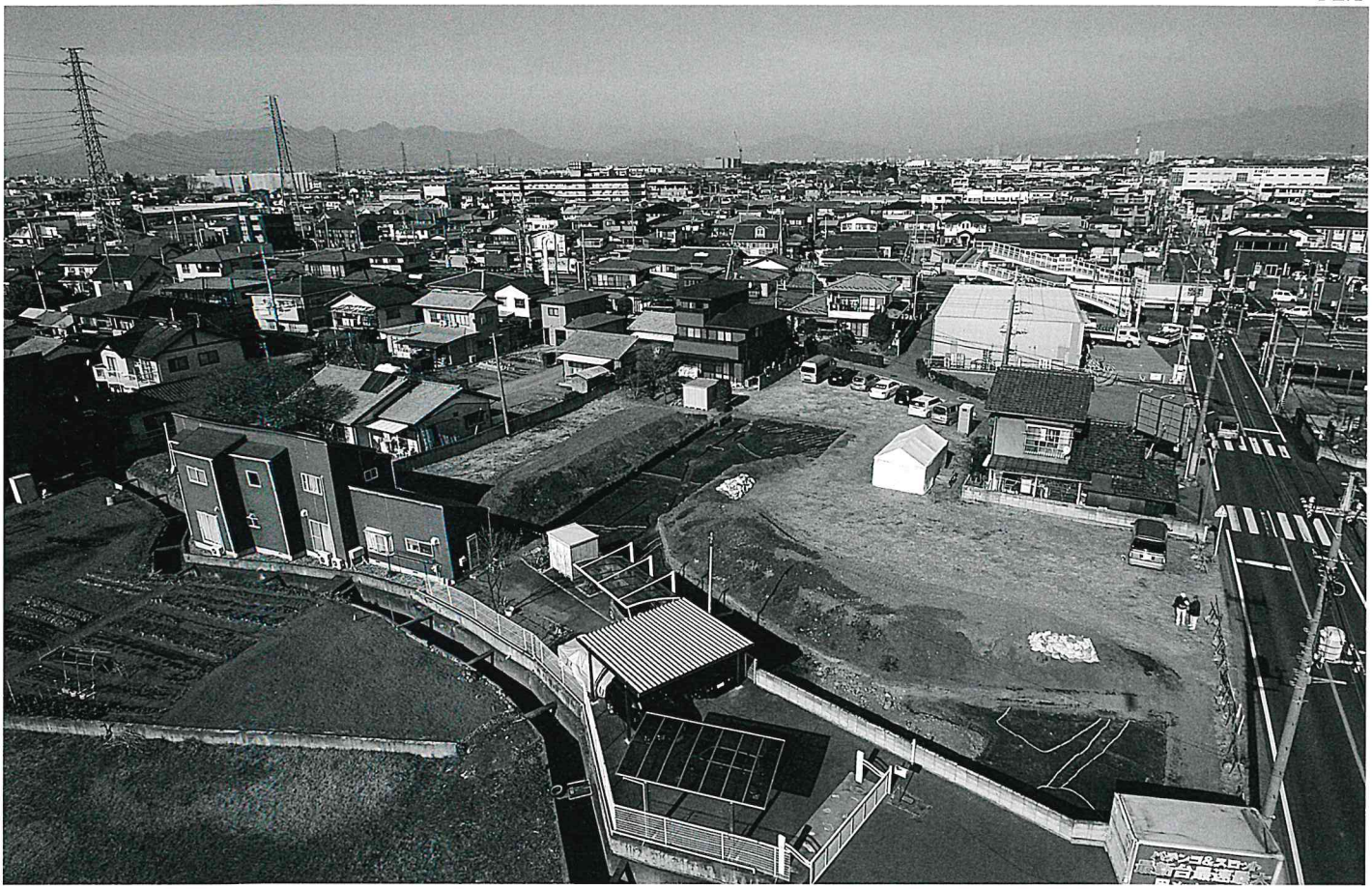
第 3 表　包含層遺物観察表（単位cm）

番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・〈残高〉	整形・調整・文様等	胎土	焼成（質感） 色
6	縄文土器 深鉢	包含層 基本堆積Ⅳ層	―　・　― 〈5.9〉	外面：単節ＬＲ縄文を施文　内面：横方向のナデ 内外面の色調はにぶい黄褐色だが断面にて内部は黒色を呈する	片岩片含有か 細砂粒 繊維含有	良好（硬い） にぶい黄褐色
7	縄文土器 深鉢	包含層 基本堆積Ⅳ層	―　・　― 〈3.9 〉	外面：口縁部隆帯　隆帯下に指突文と考えられる中に斜め方向の沈線施文 内面：横方向のナデ 内外面及び断面にて内部は暗赤褐色を呈する	砂粒 白色粒	良好（硬い） 暗赤褐色
8	縄文土器 浅鉢	包含層 基本堆積Ⅳ層	―　・　― 〈6.6〉	外面：単節ＲＬ縄文を施文　内面：ナデ 内外面の色調はにぶい黄褐色だが断面にて内部は黒色を呈する	細砂粒 白色粒 繊維含有	良好（硬い） にぶい黄褐色
9	石器 打製石斧	包含層 基本堆積Ⅳ層	長 7.1・幅 5.2 重さ 75 g		片岩製	暗緑灰色

Ⅵ　総括

今回検出された畠跡と 1 号住居跡の関係であるが、調査の結果両者には時期幅があり同時存在はしていなかったと考えられる。しかし、隣接（第 2 図参照）して調査された倉賀野中里前遺跡（2）において平安時代の住居跡が 10 軒検出されており、本遺跡で確認された畠跡の耕作者と推測することは可能であろう。倉賀野中里前遺跡では畠跡は検出されていない為、本遺跡との中間地点が集落と生産域の境であると推測される。なお、今回確認された畠跡に関しては、層厚が厚い箇所では 25cm程あるが、遺構確認面であるⅣ層を約 2 ～ 5 cm程しか鋤き込んでおらず、重機による表土除去及び遺構確認作業時に少しでも深く掘削してしまうと畠跡を検出する事は非常に困難になってしまうと考えられる。よって今後周辺の発掘調査時には表土除去時の留意が必要であることが指摘されるところである。

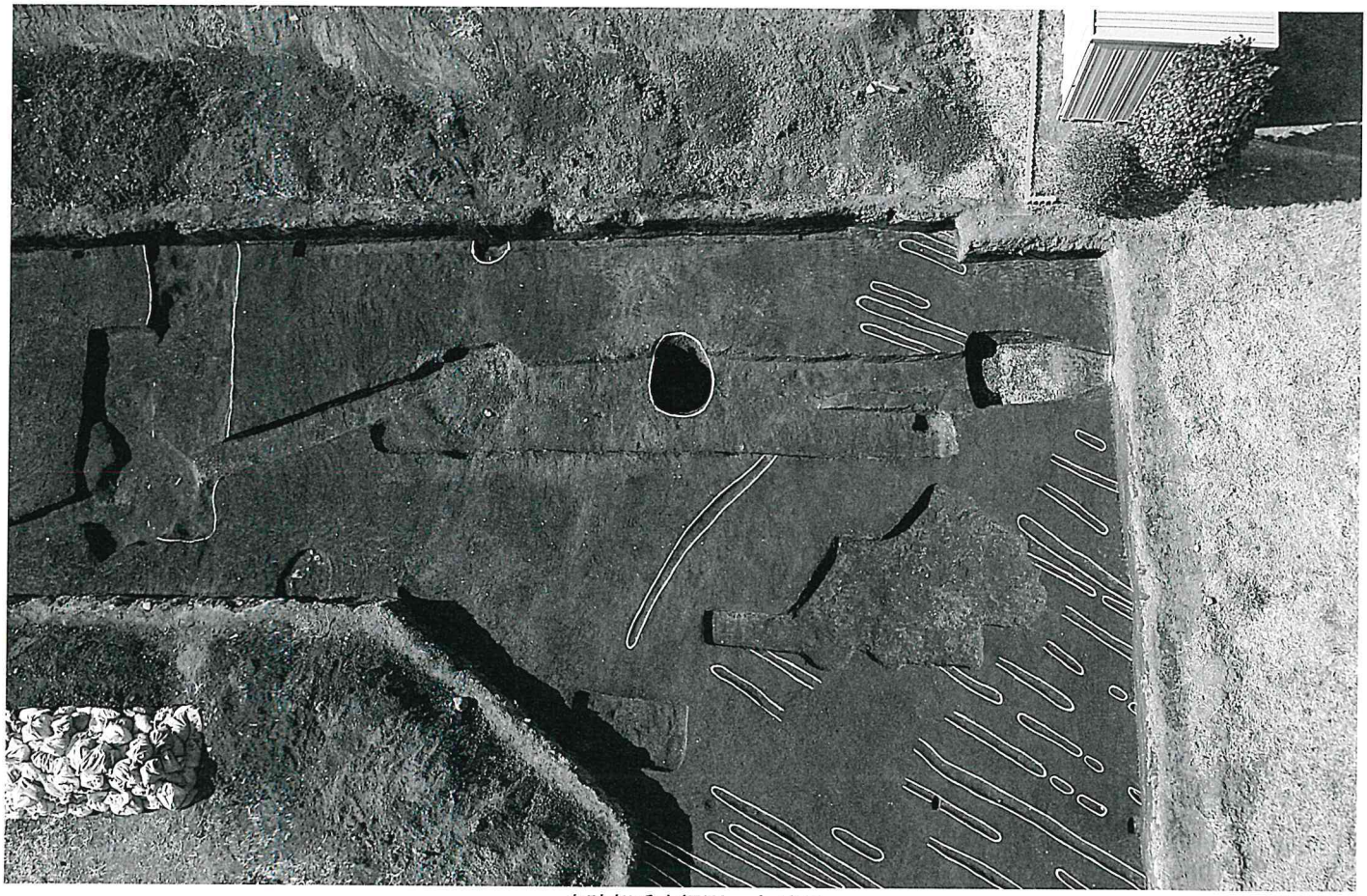
写真図版



調査区全景　上が北西

調査区全景　上が東

調査区垂直全景　上が北



畠跡部垂直撮影　上が西

表土除去作業

1号住居Aセクション　南東から

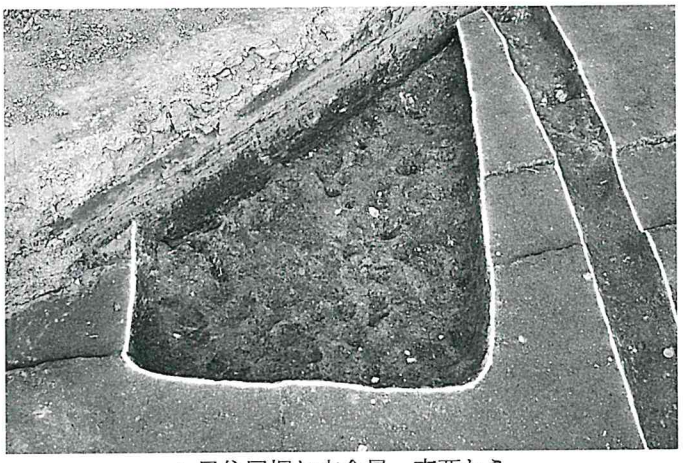
1号住居Bセクション　南西から

1号住居遺物出土状況全景　南西から

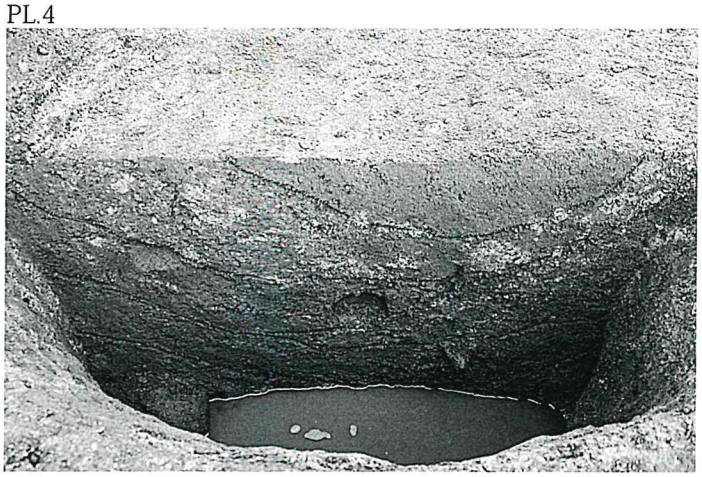
1号住居　遺物No.4出土状況　南西から

1号住居　遺物出土状況　東から

1号住居掘り方セクション　南東から



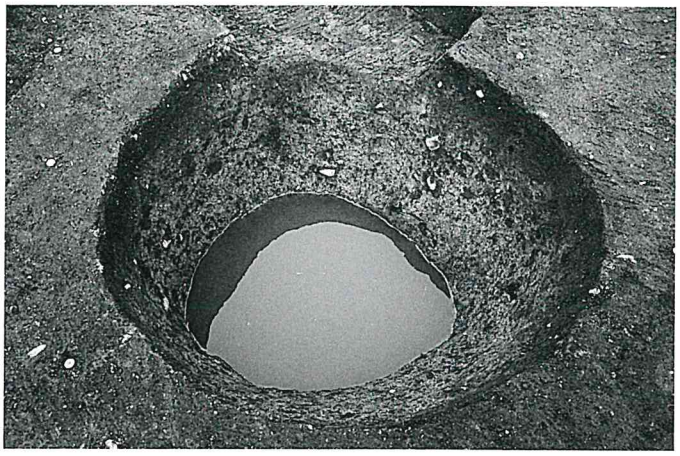
1号住居掘り方全景　南西から



1号井戸Aセクション　南から

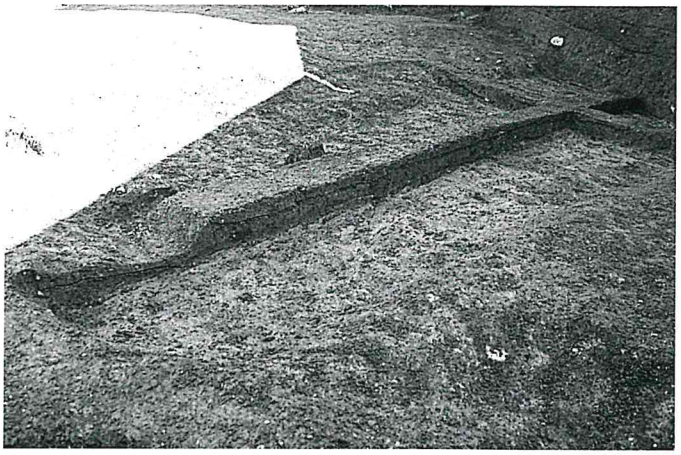
2号井戸Aセクション　北から

1号井戸全景　南から

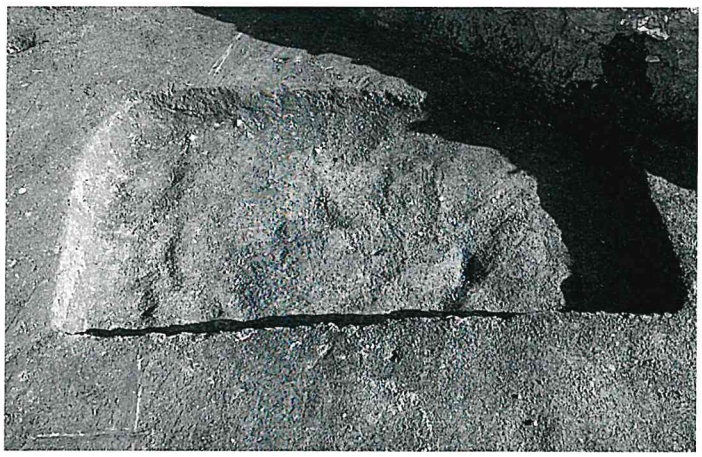


2号井戸全景　南から

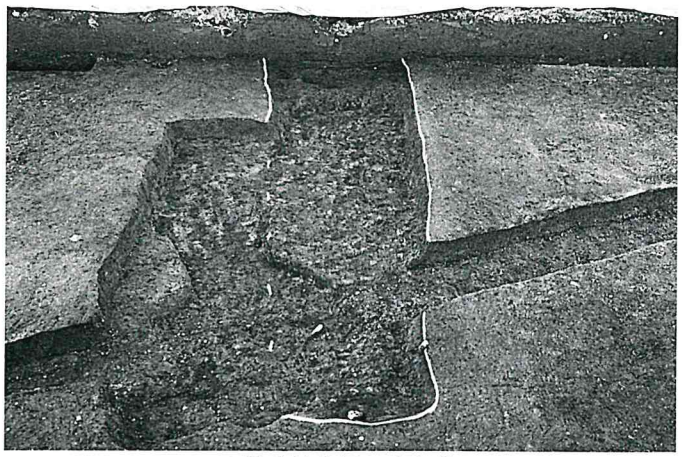
2号土坑Aセクション　南から



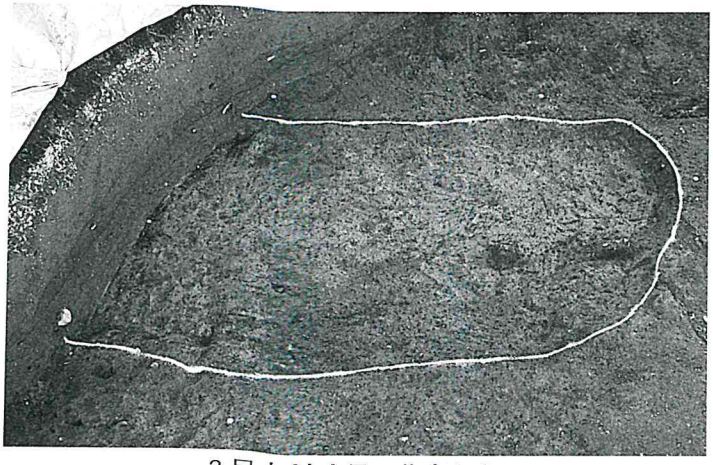
3号土坑Aセクション　西から



1号土坑全景　西から

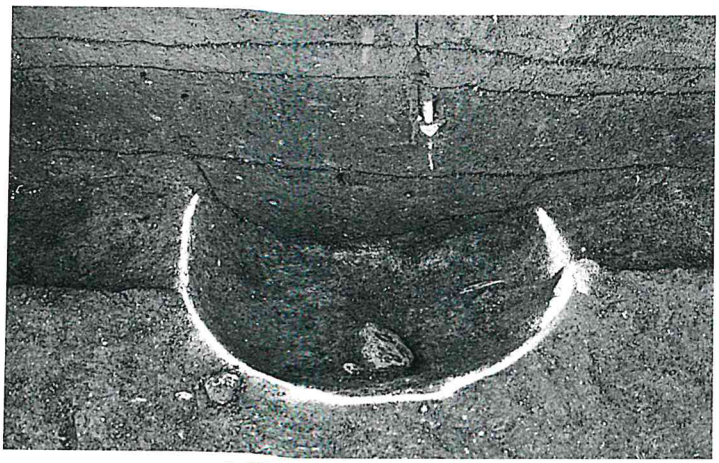


2号土坑全景　東から

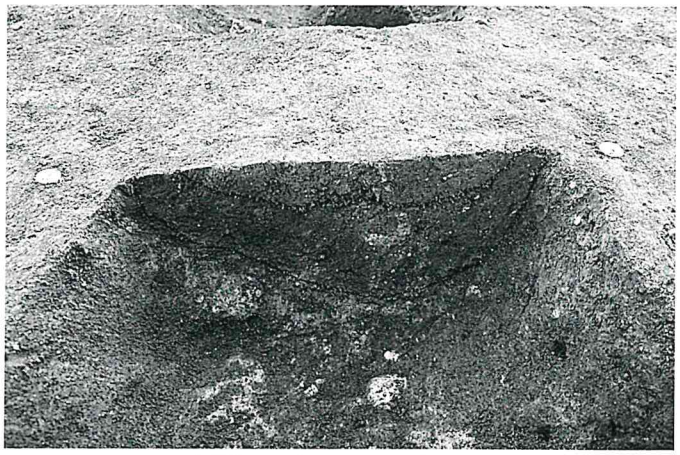


3号土坑全景　北東から

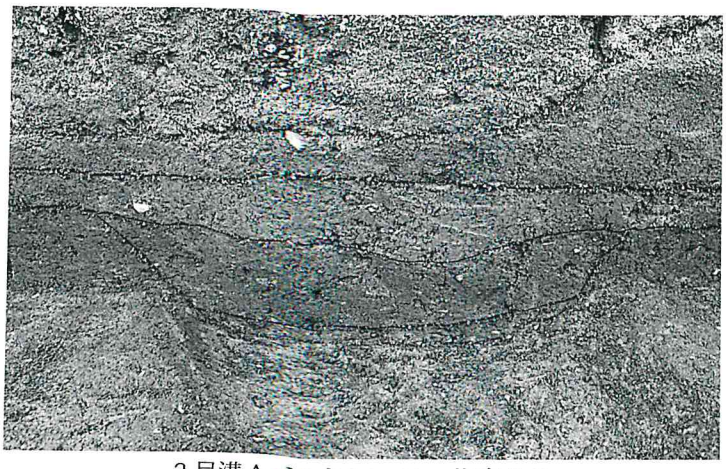
4・5号土坑全景　東から



6号土坑全景　東から

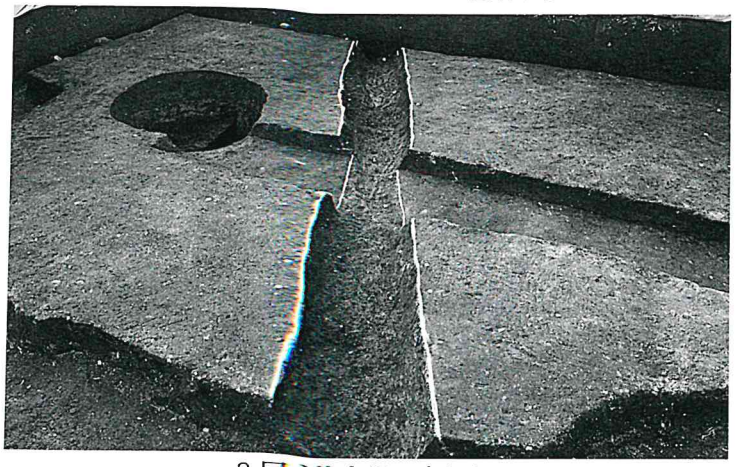


1号溝Bセクション　南西から

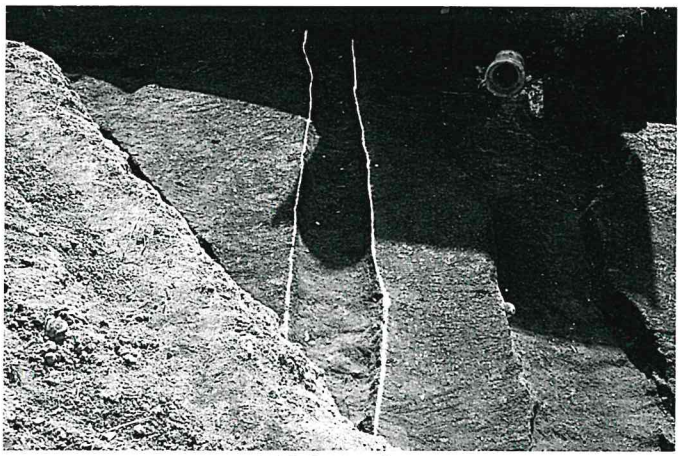


3号溝Aセクション　北東から

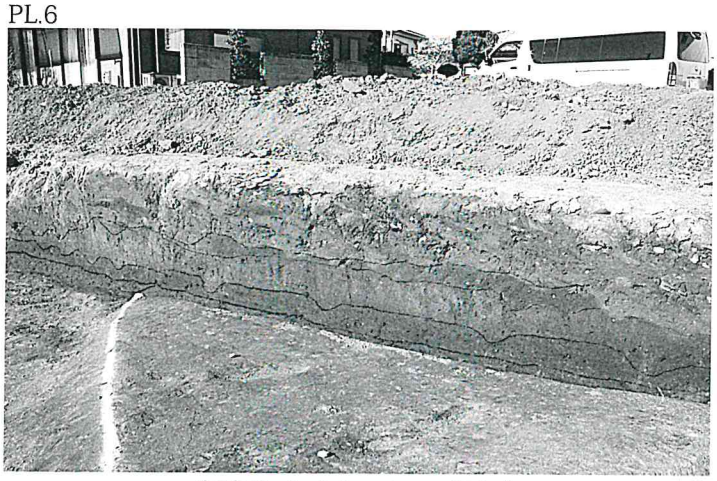
1号溝全景　南西から



2号溝全景　東から



3号溝全景　北から



畠跡Ｄセクション　南から

畠跡全景　南東から

畠跡全景　北西から

旧流路Ｃセクション　南東から

旧流路Ｃセクションアップ　南東から

旧流路全景　南東から

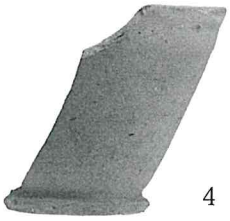
包含層遺物No. 7 出土状況　北西から

包含層遺物No. 9 出土状況　南から

1

2

3


4

5

6

7

8

9

参考文献

群馬県史編さん委員会　1990『群馬県史　通史編１原始古代１』群馬県

奥冨 雅之　志田 登　宮崎 重雄　飯島 義雄　1996『倉賀野中里前遺跡』高崎市遺跡調査会

高崎市教育委員会　1998『高崎市遺跡分布図』高崎市内遺跡詳細分布調査報告書高崎市教育委員会

高崎市市史編さん委員会　1999『新編 高崎市史 資料編１ 原始古代Ⅰ』高崎市

高崎市市史編さん委員会　2000『新編 高崎市史 資料編２ 原始古代Ⅱ』高崎市

池田 敬　2001『倉賀野条里Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡　倉賀野上稲荷前Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡　三坊木Ⅰ・Ⅱ遺跡』高崎市教育委員会

黒田 晃　山本ジェームス　2009『倉賀野下新堀遺跡』高崎市教育委員会

小川 朋恵　2010『倉賀野西上正六遺跡』高崎市教育委員会

大野 義人　2014『倉賀野上樋越遺跡』高崎市教育委員会

報告書抄録

フリガナ	クラガノツジヤクシ　イセキ
書名	倉賀野辻薬師遺跡
副書名	宅地分譲に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 336 集
編著者名	澤田 福宏
編集機関	有限会社 高澤考古学研究所
編集機関住所	〒 370-0005　群馬県高崎市浜尻町 930 番地 6
発行年月日	平成 26（2014）年 9 月 30 日

所収遺跡名	倉賀野辻薬師遺跡						
所収遺跡所在地	群馬県高崎市倉賀野町字辻薬師 5396 番地 1						
市町村コード	遺跡番号	北　緯	東　経	調査開始	調査終了	調査面積	調査原因
102020	584	36° 18′ 6″	139° 3′ 11″	20140106	20140207	380㎡	宅地分譲

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
倉賀野辻薬師遺跡	集落	古墳～平安時代	竪穴住居跡 溝 土坑	土師器 須恵器	As-B 降下以前の畠跡
	生産跡	古墳～平安時代	畠跡		
	包含層			縄文土器	
	その他		旧流路		

— 倉賀野辻薬師遺跡 —
高崎市文化財調査報告書第 336 集

平成 26 年 9 月 25 日　印刷
平成 26 年 9 月 30 日　発行

編集・発行　有限会社 高澤考古学研究所
印刷・製本　上武印刷株式会社